

---

# 【バカとメダルライダーと召喚獣】 ~ lastbattle・000 ~

000・JANIKELU

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

【バカとメダルライダーと召喚獣】last battle・OO〇〇

### 【Nコード】

N4729BA

### 【作者名】

OOO・JANIKELU

### 【あらすじ】

終わった戦いはこれから始まる。バカとメダルライダーの続編！「奇跡は必ず起きる！」吉井明久：仮面ライダーオーズの戦いが再び始まる：三年、新しい転校生、新しい物語：そして未来をかけた戦い。【本当の奇跡もきつとある】

## 第一話【終わりの始まり】（前書き）

皆さんどうも！ということで書いてしまいました続編。今回は平成ライダーが登場ということで様々なキャラが出てきますが主人公は勿論オーズです！

物語のスタートは映司と別れた所からです

## 第一話【終わりの始まり】

『いけえ！明久！』

『セイヤアアアアアアア！！』

『ぐあああ！』

自分の欲望を思い出し苦しく激しいグリッドとの戦いに勝った明久達は長い戦いに終止符を打った

そして数年後…

『パパ！』

『あなたお疲れ様』

『うん…ただいま』

愛しい者と添い遂げ子供を生み…夢を掴み…彼は明るい未来を過ごしていた

物語は…そんな未来に致までの間を書き綴ったものである

・戦いはまだ終わってはいなかった

グリードを倒し…僕らはつかの間の安らぎを得ていた

後に必要となる力を捨てて…

「え！？アंकを人間にできるんですか！？」

「可能性は低いですが…やってみる価値はあると思います」

とある研究室ではDr・真木と言われる天才科学者とかつてオーズとして戦った吉井明久がいた

その近くにはアंकと呼ばれるグリードと学園長である藤堂カヲル、明久の親友達がいた

「…実験の内容は…」

「…簡単です。しかし代償は大きいです」

Dr・真木はしばらく明久を見つめた後ゆっくりと口を開いた

「君の持つコアメダル全てが必要となります。そのコアメダルをアंक君に注ぎ込み強力な力が発生した時…ようやく実験がスタートするので」

「なんだコアメダルか…なら早く始めましょう」

明久は約二十七枚のコアメダルを真木に渡しすぐにアंकを実験室へと連れて行く

「吉井君に…よき終わりを」

その言葉にまどかはまるで何が起きるか理解したようにすぐに反応しゆつくりと明久の方を見た…

（明君…私ね 明君が傷つくのを見てるのが嫌だった…せめて少しでも休息できたらなって。でも、明君は戦いが終わっても…まだ何かと戦ってる気がする…ううん。戦わないといけなくなる日が必ずやってくる…だから今は…力を失っても良いんじゃないかな）

まどかは俯きながら拳をぎゅっとに握りしめる…コアメダル達もまた明久にとっては大切な親友であり…そしてこの後起きる結果についてわかっていた

（だから…その時まで絶対戻ってくると信じよ？…明君は力がなくても仮面ライダーだよ）

「明久…お前本当に良いのか？」

「何が？」アंकの質問に明久は何もないかのように実験の準備を進める

「わかってんだろ？コアメダル達を失えばあいつらは消える…そしてお前も戦う…守る力が失われるんだぞ？」

明久はその言葉に顔を伏せながら準備をしていた手を止める

「……………わかってるよ。でもさ…僕のやるべきことは終わったしアंकを戻してやりたいし…彼女達ならわかってくれるよ」

彼女達…明久を慕って…明久に好いてそして明久と戦ってきたコアメダルの人格達だ

明久が行おうとしていることは絆と愛を手放すことであり…彼にとつてはずっと戦ってきた仲間を失うのは辛いだろう  
アंकはこれ以上何も言わなかった

「真木先生！準備完了です！」

「了解です。では君も危険ですので離れていてください」

真木に言われるまま明久は実験室から出る…去り際にアंकまた会おうねと言って

アंकも消える。同じ性格のアंकだけど今までのアंकはいなくなる…

「明久…お前と絆を持てて良かった」

「アंक…」

実験を始めます

アंकの意志を含めたコアメダル達は融合を起こし…異次元空間を作った

「……みんな。さようなら」

明久は異次元空間へと吸い込まれたメダル達を呆然と眺めていたのだった

そして実験が終了し原型を留めたままアंकが実験室から出てくる

「アंक…ううん。真吾お帰り。そしてよろしくね」

「ああ…」

アंकは消え、彼は泉真吾と名乗るのだった…

しかし、コアメダルが異次元空間に消えたことで様々な現象が起きたことに誰も気づかなかった

数ヶ月の間明久はみんなと二年生の学園生活を楽しんだのだった  
そして…季節は12月の終わりを迎える…

「じゃあ…行ってくるね」

「……気をつけてねアキ君」

「連絡ぐらい入れろよ？」

「変なことに巻き込まれへんように祈っとるで」



「……にやあ。行つてらしゃい」

「迷うでないぞ？」

「……良いモデルがいたら撮影よろしく」

「海外で馬鹿やるなよ？」

「アキ…頑張つてね」

「明久君！帰ってきたらお弁当作りますね？」

「明久…着いたら連絡入れてね？」

「ははは…みんなありがとう。わかってるよフェイト…絶対入れるから」

「見つかることを祈つてるわ吉井君」

「先輩…体調崩さないでくださいね？」

「お前の安全が一番大切だからな」

「…明久…お前は使える馬鹿だ。だから死んだら許さねえ」

みんなからの言葉を胸に刻み明久は空港へと向かつて行く  
しばらくのお別れ

一人旅…不安なことは沢山ありかすかに手が震えていた

「明君！」

「まど…」

明久が振り返り何かを言う前にその唇は彼女の唇で塞がれた  
…一同驚きである

「行つてらっしゃい！帰ってきた時は明君好みの女になってるよう

に頑張るから」

「まどか…」

「明君…私ね 希望や信じる事ってやっぱり素敵だなんて思った…ホントの奇跡もきつとあるよ!」

まどかの今年最後となる言葉は明久の胸に深く突き刺さり…震えもなくなっていたのだった

「うん…ありがとうまどか」

明久は笑顔でそう言つとみんなに手を振りながら飛行機へと乗り込むやがて…飛行機は飛び立ち…明久は海外へと消えて行った

一同は飛行機が消えるまでずっと眺めるのだった

## 第一話【終わりの始まり】（後書き）

【count the medal】

現在明久が使えるメダルは：

無し

## 第二話【新たな学期と】（前書き）

今日は二話までにします。勢いの為、内容が複雑かもしれません

・count the medal

現在明久が使えるメダルは？

無し

## 第二話【新たな学期と】

あの戦いから約一年…僕は遂に最上級生になった。思えば去年は様々な出会いやイベントがあった…

アंकとの出会い…オースへの変身…グリードとの戦いやまどか達からの告白

そして…最後に変身する力を失ったことだ

最後のグリードを倒しアंकは鴻上さん…お爺ちゃんの研究により見事コアメダルからの分離に成功し…今では泉真吾と名乗っているけど代償は大きかった…仮面ライダーに変身するコアメダルを研究に必須とした為…コアメダルは研究により次元の彼方へと消えてしまったんだ。アंकの為ならば容易いけど…何故か心が痛むまあ…そんなことはとりあえず置いて…火野さんとお別れし、僕は楽しく高校生らしい一年を過ごしたのだった…

場所は変わり…とあるスペースシップ…ここで激しい激突が繰り広げられていた

『おりゃああ!』

『ジョーカーエクストリーム!』

『ウエイクアップ!』

『ファイナルベント』

平成ライダーと言われる仮面ライダー達がナイト兵やマスカレイドドーパント、ダスタードと言った怪人軍団達を蹴散らしている。奴

らはけして強くなく雑魚怪人のショックと同じようなものである

『後はお前だけだ…』

世界の破壊者と言われる仮面ライダーディケイドは一人の男に指を指した

『一人？笑わせるな仮面ライダー』

男は軽く笑いとばし玉座から立ち上がった

『又アアア！』

男は体中からパワーを放出する…途端に地面に紋章が浮かび上がり  
今までの倒してきた敵達が出現する

『…0号！』

『オーデイン！』

『シャドームーンか』

『アルビノ…ジョーカー！？』

『大道まで…』

『行け！仮面ライダー達を倒してしまえ！！』

怪人や仮面ライダー達は一斉に攻撃を放つ…仮面ライダー達は防御  
するも強力な力に耐えきれず吹き飛ばされてしまった

『ハハハハ！これで世界は私のものとなる！この私！レム・カンナ  
ギのものにな！』

舞台は再び学園へと戻る…桜が満開の中、学生達は新しい学期を迎える

規則正しくブレザーを着こなす者もいればだるな格好で怒られる者もいる そんな中、坂道を規則正しいリズムで登ってくる者がいた…身長はおよそ176前後で顔立ちも良く吊り目気味なのだがどこことなく優しい雰囲気がありネジが一本抜けたような感じの少年だ

「今日は大丈夫だねっ」

彼の名は吉井明久…文月学園の三年生であり、かつて平和の為に戦った仮面ライダーオーズである

またの名を『もげる！このハーレム野郎！』と言う

「違うから！？それにもげちゃ駄目でしょ！」

「吉井…誰と話している」

「あっ！鉄人！？」

「お前は相変わらずだな…」

明久が鉄人と言ったこの男は文月学園教師にして生徒指導担当…西村宗一である 趣味がトリアスロンということと、この明久と比べものにならない筋肉…そう言ったことから『鉄人』『マジンガーZ』などと言われている まさに文月学園最強の教師である

「！先生！暴力は反対です」

「そう言つとおきながら何故お前は避けれる」

明久は去年からの戦いで喧嘩慣れをしている…今なら西村の軽い攻撃はなんなく交わせるだろう

西村は一度溜め息をついてから茶封筒を明久に渡す

「どうもです」

「吉井…今回お前は…」

「わかつてます。無得点ですよね？」

明久は12月の終わりから昨日までずっと海外を旅していた。理由は簡単でコアメダルの行方とアंक蘇生の方法を探していたからだ。昨日帰国したおかげで振り分け試験は無得点

よって吉井明久はFクラス確定なのだ

そして明久は12月から昨日までは誰とも会っていない

「吉井…喜べ」

「何ですか？」

「この俺が担任だ」

この西村の一言により明久は宇宙に届くくらいの叫び声をあげたのだった

「ん…？何だ今の」

明久の悲鳴に反応する者がいた…月の月面で何かを練習していた真っ白な姿にロケットの頭をした仮面ライダーである

名は仮面ライダーフォーゼ

今、再び吉井明久の新たなバカテスライダー物語が始まろうとするのだった

ト be continued



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4729ba/>

---

【バカとメダルライダーと召喚獣】～lastbattle・000～

2012年1月12日22時49分発行